

(韓国日報 11月21日)

“ 出迎えもなく ^{らみ} 魂 帰国、
徴兵、徴用で犠牲の246柱 ”

日帝時代の徴兵、学徒兵、徴用等により他国に引ッ

ぱられ^て死んだ 246柱の遺骨が 11月20日午前蘭釜

で^の一ヶ所に^の祖国に帰ってきた。太平洋戦争当時^の犠

牲として公式集計された戦死者 21,912名中

東京の祐天寺に安置されている 2,329柱の中の

が1次奉還分である 246柱は、^の一ヶ所

貴賓室で奉迎祭を行なった後、草梁洞金水寺

に奉安された。

1.20 同志会の幹役により 26年ぶりに、言葉の
帰国した この遺骨は、日本の厚生省倉庫に放置
されていたが 去る 6月、祐天寺に移された。

遺骨 246粒が帰ってくる。この日のフェリー埠頭
には 吊花 一つなく、初冬の潮風がせわしく吹い
ていた。

フェリーが到着した午前 7時 30分、遺骨を護送
してきた 日本外務省北東アジア課 竹由文氏らは、遺
族の出迎えるまい埠頭に、遺骨を降ろす場所を
目探した。引取り責任者の 1.20同志会側と
釜山年関係者は 8時 20分頃 埠頭へと出迎える。

この間、フエーの日本女性乗務員5名は、日本外務省と
厚生省^等の布花を持って~~下~~、フエー会社社員が
白い箱の遺骨を運んだ。

埠頭に来た遺族は、クヨソクキエ氏とクヨソクム

スソ氏の兄弟のみであった。終戦前、学徒兵として

~~運~~^{リッパ}来た兄クヨソクパンゲ氏が某船中の機関士

として勤務していたという事以外は記憶していないと

いながら、兄の遺骨が帰ってきたという消息を聞いた

母が釜山に行くというのをとめて、自分達だけが来たので

あると語った。

1.20同志会^側は、遺族が遺骨と迎える瞬間、悲し

と怒りて奉^レ倒^レに^レなり、投石^レに^レ了^レ事態が起^レる

ことを憂^レひ、遺^レ骸^レには事^レ前^レに連^レ絡^レに^レな^レつた^レと語^レる

遺^レ骨^レが奉^レ安^レされ^レ金^レ永^レ寿^レに^レか^レけ^レつ^レた^レ遺^レ骸^レバ^レク

4^レ×^レソ^レソ^レ氏^レは第^レバ^レクホ^レグ^レス^レ氏^レの遺^レ骨^レ確^レ認^レを急

に^レな^レす。

31個の木箱の中に入^レる遺^レ骨^レを靈^レ柩^レ車^レに積^レん^レでい

る間、個^レ々^レと日^レ本^レ遠^レ征^レし、^レ戦^レひ^レ勝^レつ^レて^レ帰^レ国^レに^レな^レる^レ韓^レ國^レ

高^レ校^レ理^レ球^レ選^レ抜^レチ^レーム^レの款^レ迎^レ式^レが^レ行^レな^レす。

フ^レラ^レウ^レカ^レトと花^レ束^レに^レ囲^レま^レれ^レる^レ学^レ生^レ達^レの^レに^レぎ^レや^レが^レな^レ款^レ迎^レ

式^レは、さ^レか^レし^レい^レ遺^レ骨^レ奉^レ安^レ景^レと^レ非^レ常^レに^レ対^レ象^レ的^レに^レあ^レつ^レた。

あ^レつ^レた。